

知的障害特別支援学級の授業づくり

『すけっと』がお助けします！



2019～2020年度 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 基幹研究
「知的障害特別支援学級担当者サポートキットの開発—授業づくりを中心に—」
研究成果物

知的障害特別支援学級担当者のための
授業づくりサポートキット (小学校編)

すけっと Sukett



独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所 知的障害教育研究班

次のページから、
『すけっと』の中身を
少しだけご紹介します！



まず、押さえておきたいこと！

知的障害のある児童は抽象的な思考に困難さがあるため、学習した内容を実際の生活場面で生かすことが難しい場合があります。

したがって、児童が実際の生活場面と学習内容を結び付けながら身に付けられるよう、具体的な活動を通して学習を積み重ね、定着を図る必要があります。



例えば、
こんな授業

学習によって得た知識や技能が断片的になりやすく、実際の生活の場面に生かすことが難しいので、

- ▶ **実際の生活場面**に即しながら、**繰り返し**学習する。
- ▶ **継続的、段階的**な指導をする。



例：【模擬貨幣での買い物の活動（お金の学習）】
買う側・売る側の両方に慣れてきた頃、みんなで折り紙を作り、お店を開いて友達に買ってもらう「お店屋さん」の活動につなげました。



知的障害のある児童の特性や教育的対応のイロハについては『すけっと』のP.5～8をCHECK!!

知的障害のある児童一人ひとりの特性や実態は異なります。
授業づくりの第一歩は「実態把握」です！



例えば、国語科においては、下記の観点ごとに児童の実態を把握してみましょう！

言葉の特徴や使い方	<ul style="list-style-type: none"> ● 身近な名詞、動詞、形容詞と、それが示すものとの対応をどの程度わかっているか（語彙）。 ● 他人の話した内容が何を表しているのか、どの程度わかっているか。 ● 1文字のひらがな、カタカナ、漢字をどの程度読めるか。 ● ひらがな、カタカナ、漢字それぞれが含まれる単語をどの程度読めるか。
情報の扱い方	<ul style="list-style-type: none"> ● 話や文章の中に含まれている複数の情報の関係性を、どの程度理解できるか。
我が国の言語文化	<ul style="list-style-type: none"> ● 昔話や言葉遊びをどの程度知っているか、それを楽しめるか。 ● 読み聞かせにどの程度の注意を向け、楽しむことができるか。
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ● 話しかけにどの程度注目して、内容を理解し、答えることができるか。 ● どの程度、指示を理解して行動できるか。 ● 体験したことや自分の気持ちをどの程度表現できるか。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ● ひらがな、カタカナ、漢字それぞれのなぞり書き、写し書き、見本なしでの書字がどの程度できるか。 ● 書くことで自分の体験などをどの程度表現できるか。 ● 文字をどの程度なめらかに書けるか。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ● 読んだ内容が実際にどのようなことを表しているのかをどの程度理解できるか。 ● 読んだ内容の時系列などをどの程度理解できるか。 ● 文章をどの程度なめらかに読めるか。

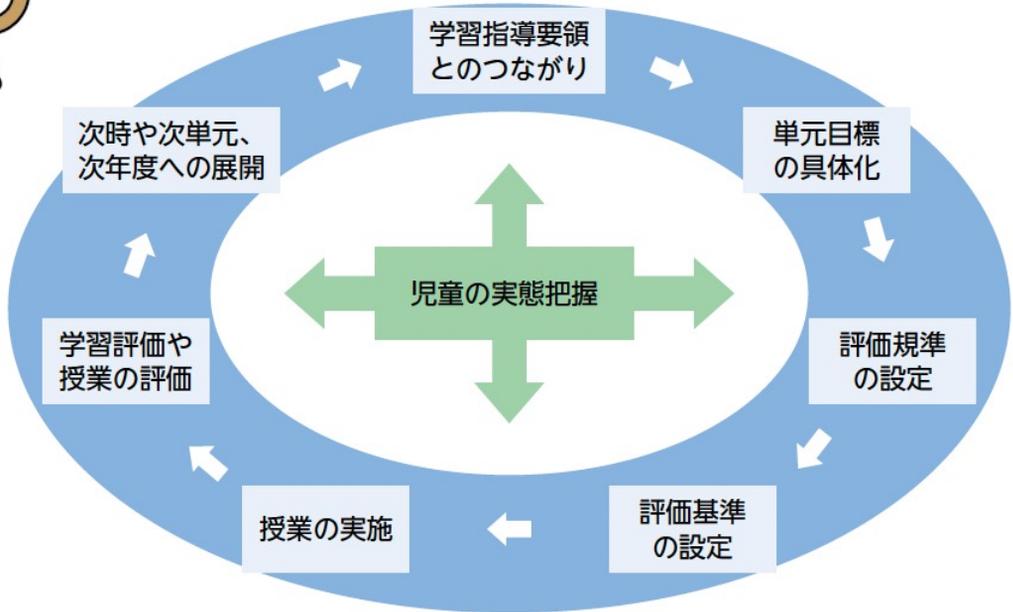


知的障害のある児童の国語科や算数科の指導のコツについては『すけっと』のP.10～23をCHECK!!

授業づくりの流れとポイントは？



実際に指導案や単元計画を作成していく際は、各ステップを行きつ戻りつしたり、常に児童の実態と照らし合わせたりする必要があり、一直線に進むものとは限りません。



集団での学び合いのポイントは？



知的障害特別支援学級では、学年と発達段階の違いのある学習集団で、個別の課題に応じた指導をしなければなりません。

共通の学習内容で学び合う授業づくりのためには、指導内容を分析してスモールステップ化します。そのことによって、幅広い学年と発達段階に対応した指導内容を系統的に整理することができます。



知的障害のある児童の授業づくりの流れやポイント、集団での学びについては『すけっと』のP.24～45をCHECK!!



【タブレット端末の活用】

教科別の指導で活用するアプリを事前に学級活動で使用して慣れておくなど、教科別の指導の学習内容に集中できるように工夫をしています。使用する目的を明確に伝え、使用時のルールなども確認しておくとうよいでしょう。



【ホワイトボードの活用】

ホワイトボードにある写真と同じ写真カードを用意しておき、児童が自分の机上で教師の質問に対する答えを予想し、分類しています。全体での学習を個人作業で確認することで、理解度を見取ることができます。



知的障害のある児童の授業において使用するICT、教材・教具については『すけっと』のP.58～73をCHECK!!

さらに詳しい内容は、 Webページ「すけっと ばすけっと」へアクセス！



「すけっと (Sukett)」という通称は、「助っ人」という日本語と、英語のアクロニム **S**upport **K**it to **E**mpower **T**eacher **T**eams (教員チームをエンパワメントするためのサポートキット) を掛けてつけたものです。



<URL>

https://www.nise.go.jp/nc/study/others/disability_list/intellectual/sk-basket

「すけっと ばすけっと」には「すけっと」ダウンロード版に加え、「すけっと」紹介動画や、知的障害教育に関する基礎的な内容を解説した「すけっとどうが」などのコンテンツが揃っています。

もくじ



これだけは知っておきたい！実践編

授業づくりにあたって、知っておきたい実務的な知識について概説しています。

知的障害のある児童の指導のイロハ	5
知的障害のある児童の「国語科」指導のコツ	10
知的障害のある児童の「算数科」指導のコツ	16
授業づくりの流れとポイント解説	24
読み物：「指導内容ステップ表」のすめ	35
読み物：行動観察のヒント	37
読み物：困った行動を減らすには	39



もっと知りたい！理論編

教育課程や学習評価に関する国の動向について概説しています。

教育課程の編成	47
学習評価の基本的理解	52



すぐに役立つ！資料編

授業づくりだけでなく、教室環境や連絡帳などの写真を掲載しています。また動画URLなどを掲載しています。

環境整備、教材・教具の工夫	59
ウェブページ～すけっとばすけっと～	74
読み物：知的障害のある児童の学習におけるICT活用	77
参考文献	81

別冊

NISE授業づくりサポートシートでばっちり！事例編

NISE授業づくりサポートシートの記入例から、実際の事例をイメージすることができます。

NISE授業づくりサポートシートと使い方	2
事例1 国語科「書くこと」	8
事例2 国語科「読むこと」	27
事例3 算数科「測定」	46

*「年間指導計画」の例が別のファイルにあります。

すけっとの主な使い方



知的障害特別支援学級の授業づくりが知りたい



●年に数回、NISE授業づくりサポートシートを使って授業づくりを行うと、知的障害特別支援学級の授業づくりの理解が深まります。ぜひ、活用してください。

校内の知的障害特別支援学級の授業の質を高めたい



●NISE授業づくりサポートシートを使った研究授業は、知的障害特別支援学級の授業づくりの研修に役立ちます。また、動画講義は校内研修に活用できます。

地域の知的障害特別支援学級の授業の質を高めたい



●NISE授業づくりサポートシートは、研修で授業づくりに関する演習を行う際の教材として役立ちます。

本リーフレットは、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所で実施した基幹研究（知的障害教育班）「知的障害特別支援学級担当者サポートキットの開発-授業づくりを中心に-」（令和元年度～2年度）の成果をもとに作成したものです。
（研究代表者 涌井 恵）



独立行政法人

国立特別支援教育総合研究所

〒239-8585 神奈川県横須賀市野比5-1-1

TEL: 046-839-6803 FAX: 046-839-6918

（令和3年7月発行）